



# 連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局  
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>  
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 312 号

(創刊 1988 .12.14)

2015.09.06.

## 「桂台トンネル説明会」開催

## 公田換気所排気ガス量、1.7 倍に！

### 抗議と要請

去る 8 月 7 日(金)と 8 日(土)に横浜環状南線(以下「南線」という)桂台トンネル工事に関する工事説明会が、上郷地区センターと桂台中学で開催された。猛暑にも拘らず同地区を中心に毎日 100 人以上の方々が参加され生活に密着した多くの疑問を事業者に投げかけた。



(事業者側の説明)

連協として両日のやり取りに重大な誤り及び疑問を見出しており、それを抗議する文書を 8 月 19 日付で横浜市長に提出して市長の意見と回答を求めた。

工事に関する基本的な事項については事業者である国が出席していないため回答することができず、住民を愚弄するものであった。またこの工事による影響は近隣を含めた広域であるにも拘わらず説明会の案内は限られた沿線区域の一部のみであり、参加した周辺住民は当日なぜ案内がないのかとびっくり仰天したのである。

今後はこの二日間での質問に限らず身近なあらゆる疑問を「住民の理解を得ることが不可欠である」の原則に基づき、連協が定期的で開催している事業者との質問会で厳しく追及する機会がありますので、参加して頂きますようご案内します。

(会長 比留間)

8 月 7 日の桂台トンネル説明会で、NEXCO 東日本の阿武工事長は神戸橋上部からの排気ガスについての質問に答え、「ルーバーなどがあるので、ほとんど外に漏れ出す事はない」と言明した。

つまり、公田換気所からは、桂台トンネル(約 1.8 km)だけでなく、庄戸トンネル(約 1 km、釜利谷トンネルを含む)と神戸橋橋梁部分(250m)の排気ガスも放出されるということだ。

公田換気所は、桂台小学校のすぐそば、桂台西に計画された 1 辺 40m、高さ 45m の巨大な排気筒である。20 年前の環境影響評価やその後の照査では、公田換気所からは、神戸橋から公田 IC(予定)までの桂台トンネル内で発生する自動車排気ガスを排気するという想定で計画されている。

もし、桂台トンネル説明会での説明が本当なら、公田換気所からは想定の 1.7 倍以上の排気ガスが放出されることになり、周辺環境への影響は甚大だ。

因みに、公田換気所には、NOX の除去装置も PM2.5 を除去するフィルターも計画されていない。

再度環境影響評価をキッチリ行い、適切な再設計を行いつじつまのあった説明が住民に対して行われなければならない。

(庄戸三、田中)



## 説明会に参加して

8月7日の上郷地区センターは138名、同8日の桂台中学校は125名(主催者発表)の参加を得て桂台トンネル工事説明会が行われた。



上郷地区センターの参加者

国の参加はなく、所謂「合併方式」の法的根拠不明のまま説明会は強行され、又「釜利谷 JCT から公田 IC」の説明とあるにもかかわらず、一部の関連自治会への事前連絡は全く無く、参加者を事前制限する不当なものであった。

更に、事前に終了時間を設定し質問時間制限を行い、多くの住民質問には的確な回答はなく、「祝祭日や時間外でも、事業者側都合で工事を強行する」と宣言し、時間切れを理由に説明会は終わった。

何時もの如くながら事業者の勝手な理屈がまかり通り、その本質が見えた形式的説明会であった。(GT 和田)

## 大気汚染改善なのに喘息増加？！

—嵯峨井勝先生講演会から—

神奈川県保険医協会主催公開講座で、公害と呼吸障害に関する専門家、嵯峨井勝先生の講演を聞いた。その概要を報告する。

川崎市は公害喘息医療補助に関し全国的に最も進んでいたが、川崎市保健所関係者が、「大気汚染が改善しているのに喘息患者が増えるのはおかしい。喘息は大気汚染が原因ではない。」とぶち上げ、公的医療補助を中止しようとして大きな社会問題となっている。

嵯峨井氏によれば、「NO<sub>x</sub> や SO<sub>x</sub> を指標とする大気汚染は確かに改善しているが、PM<sub>2.5</sub> や、より小さいナノ粒子が呼吸器に沈着し、時間をかけて二次的細胞障害を起こし喘息症状を悪化させる。」のである。

NO<sub>x</sub> や SO<sub>x</sub> と同時に発生する PM<sub>2.5</sub> やナノ粒子が喘息の張本人であるとの見解だ。川崎市の主張はこの「時間差」や「張本人物質」を全く無視し、「喘息は NO<sub>x</sub> や SO<sub>x</sub> が原因であり、大気汚染と喘息発症は同時並行進行関係にあるとの誤った認識」によるものである。

例えば、長期喫煙の害として喘息と同じような慢性閉塞性肺疾患(COPD)という病気があるが、これは喫煙中に最も悪くなるのではなく、喫煙を中止しても10年—20年後に発症し、慢性的な咳や呼吸障害を呈する。禁煙しても症状は続くのである。

つまり、この種の病気はその時の環境悪化と同時にではなく時間差をおいて発現し、後になって問題が明確になる事は他の全国的公害被害問題にも如実に示されている。

表面的現象ではなく、その底にあるものをきちんと見極めたいものです。

(事務局)

## 対外活動報告

- 08/07 桂台トンネル盛土地帯の掘削シミュレーション再要請(7/22)に対して、横浜市長より拒否回答書受領
- 08/18 同上回答に対して、再度、「重ねての要請」書を提出
- 08/07 桂台トンネル工事計画事業者説明会(上郷地区センター)
- 08/08 同上(桂台中学校)
- 08/09 神奈川県保険医協会主催「市民公開講座」～大気汚染と気管支ぜん息の関係(講師：嵯峨井勝氏)～2名参加
- 08/18 横環南線の事業認定手続きに関し、「社会資本整備審議会」会長に対し、起業者だけでなく住民の意見を聴くよう意見陳述申入書を提出
- 08/19 8/7～8/8の桂台トンネル工事計画説明会強行についての抗議と横浜市長の見解を求める抗議書提出
- 08/26 スパー堤防取消訴訟傍聴(東京地裁)